

市芦救援会通信

市芦救援会通信 通巻46号 90/12〈1部100円〉 発行人 玉本 格
 市芦救援会 〒659 芦屋市剣谷9 市芦分会気付 TEL 0797(32)1131
 市芦反弾圧闘争を支援する会 〒650 神戸市中央区元町通5丁目3の16 テーラビル3F

日程 '91・1A28日(月)AM10~ 小林証人反対尋問(当日は北庁舎会議室)

松本着任による異動方針の突然変更

刑事事件のデッチ上げの意図が露呈

市芦救援会事務局

去る一〇月三二日、鈴木先生の一九八六年一〇月一日学期途中の異常な強制配転に関して、小林前管理部長への反対尋問が前回に引き続き在問弁護士により行なわれました。まず、前田証言においてもコロコロとかわり意味不明として失笑をかった県市一。一交流について、その根拠もなく都合のいい使い分けに終始していたことを証言させました。六一年春の異動で「英語科の要望を受けて一名補充した」との証言は、「行革大綱に基づく一クラス減による教員二名減」の方針を現場の声を校長を通して聞く耳を持つて変更したことを示すものです。そして松本着任後、鈴木先生を「残りの一名減」にあてて配転理由としたこのこじつけ・政治的作爲が明白となるものです。六二年春、定数削減の中で英語科裏付け教員を期限終了後も採用したことについて、一名増となり一方で同じ英語科の森村先生を定数減として配転したことが矛盾する点を追及。証人は「何かの事情があった」「覚えていない」と証言できずに立往生。組合員排除の露骨な異動実態が明らかにされました。さらに、松本着任後の組合対策として、重手・カメラ・テレコ持参で数名で市芦に乗り込んだ事態を追及。「不測の事態に備えて」と、刑事事件デッチ上げの意図を自ら白状しています。九一年一月からは六名の強配の反対尋問で、教員身分をめぐる法律論議にも入っていきます。傍聴参加よろしく願います。

も／く／じ

松本着任による異動方針の突然変更 刑事事件のデッチ上げの意図が露呈

市芦救援会事務局	1
第30回公開口頭審理報告 裏付け教員を継続採用、正教員を定数削減で配転した理由は忘れた	
市芦救援会事務局	2
整理解雇撤回をさせ一日も早く職場に戻りたいノ恵泉寮つうしんより	6
ゲルニカの旗が舞う福岡へ	7
救援会事務局 滝山昌彦	7
踏みにじられた子供たちの旗	8
西村栄造	8
十五歳の今	10
長尾卒業生	10
どっこい生きている十五歳!	12
長尾小卒業生	12

裏付け教員を継続採用、正教員を 定数削減で配転した理由は忘れた

市芦救援会事務局

県市一対二交渉は原則でない

在間 弁護士（以下、在間と略）

昭和六一年度の人事異動の内容について、一・一交流の内容が前田証人への反対尋問で概念が変わってきた。当初、在籍する県立高校の先生と市立高校の先生の交流を指すといっていたのが、その後、新規採用の先生も含むとか義務制の先生も含むとか、最後には県から紹介を受けた方も対象になると広がって行き、結局は一・一交流とは何かがよくわからない。あらためて、一・一交流とは何ですか。

小林 証人（以下、小林と略）

基本的には、市の職員が市外に出る場合に、市外から入ってくるということ。

在間 教員に限らないということですか。

小林 教員がほとんどですが、県費の事務職員（小・中学校の県費事務職員）も市内と市外の交流があり、それは一・一交流とまで言

ってたかどうか分りません。

在間 一・一交流はどこかで決められてるか。

小林 法律、規則で決められてるわけではない。

在間 書面のようなものは。

小林 多分ないと思う。

在間 では根拠は何ですか。

小林 県と市の任命権者との関係における異動のひとつの考え方です。

在間 証言で、非常に大きな前提とおっしゃったが、根拠とか、いつの合意事項とか特定はできないわけですか。

小林 はい、できません。

在間 一・一交流は絶対的な原則ですか。

小林 現実には違う場合があるので。

英語科の要望で補充し、減員せず

在間 六一年度の市芦の人事異動について、森位、榎原、二宮、田辺の四人が出られた。異動希望調査について、その報告は。

小林 口頭で教職員課長から聞く。

在間 人事異動の段取りで、県との調整は。

小林 県のほうから一二月から各市の希望を聞く会がある。

在間 教科、名前も、異動先の希望校も。

小林 言います。あと一月頃と二月頃と大体三回ぐらいある。そのあと三月下旬に通知があり、提示請求をこちらがすると。誰か出られることがわかった段階で、県の採用者から提示をしてほしいと書類で行なって、県からこちらに提示されるという形。

在間 六一年度の場合、榎原さんにかわる潮海さんの提示は。

小林 三月中旬下旬。

在間 森位さんも同じですか。

小林 はい。田辺さんの提示。

在間 田辺さんは新採で合格された方ですね。小林 組合から森位先生のかわりに田辺先生を正規職員として市芦で採用せよとの要求があったので、県にお願いした。

在間 松井さんについて、英語科からの強い要求があったということですね。

小林 はい。校長がうけて、校長から、どうしても採用してもらわないと困るということになって採用した。

在間 校長から話を聞かれたのは。

小林 三月の下旬だったと思う。

在間 英語科に新たに補充すべき必要があるかないかについて市教委として検討したのか。

小林 校長から事情を聞き、希望が強くて、一クラス減で二名を減らさないかんののですがどうしてもできないということですので。

在間 では、松井さんは一・一交流とは関係なく採用されたということですね。

小林 一・一交流でなしに、補充という形で私の方で採用したということです。

休職者の裏付け教員は必要

在間 昭和五九年一二月から六二年五月までモロッコに海外協力隊としていかれた山下先生の裏付けの田中さんが、六一年三月に出られたということは、またかわりの方を採用されたんですか。

小林 はい、貞松先生です。

在間 休職者の裏付けというのは必ず必要なんですか。

小林 五九年に出られて、定員内人員という言い方もしてまして、必要性があった。

在間 事務的に休職者が出たら必ず裏付け教員を置くのか、あるいは必要か必要でないか判断して補充するのか、どちらかと聞いている。小林 一応は機械的に長期の休職者については裏付けを入れる。

在間 六一年四月採用の貞松さんは、一ヵ月

位で退職されたようですが。

小林 伊賀崎先生が入っておられる。

在間 この方も山下さんの裏付けですね。すると、山下さんの復職段階ではおやめになるという立場ですね。

小林 その裏付けである限りはそうかも知かりません。

在間 伊賀崎さんはやめられましたか。

小林 いや、やめてない。

在間 すると裏付けというのはおかしくなるのではありませんか。

小林 いや、別の形で……いや、ちょっとはつきり覚えてないですが、その辺、別の形の必要性があって、そのまま継続したということじゃないかと思えますけど。

在間 そうすると。

小林 裏付けの期間は終わってですね、それで正規の職員が入ってるわけですから、それ以外の必要性に応じて、そのまま継続して採用したのではないかと思います。

在間 山下さんが復帰されて本来は伊賀崎さんはやめられる立場だけでも、

処分者側代理人寺内（以下、寺内と略）

やめられる立場だというのは証人は言ってません。

傍聴人（以下、傍と略）

また反対尋問のジャマをするな。言うとなやないか。

審査長 裏付けというのと、裏付けが終わった

らやめるんじゃないかなと考えるんですけど、その点聞いて下さい。

在間 裏付け教員と言うのは、休職期間のプランクを埋めるという意味で裏付け教員というんでしょう。

小林 はい、そうです。

在間 そうすると、その方が復職されたら、裏付け教員は退職されるということでしょう。

小林 退職されるということではないに、私の方でその期限でやめていただくか、それとも別の必要性が生じた場合に別の形で継続するか、いずれかあると思いますから、その辺は何とも言えないと思います。

傍 正職員を配転してるやないか。

審査長 裏付けで来られた方が、元の外へ出ていた人が戻って来られたときに、特に別の必要性がなかった場合、当然やめられるんじゃないか。

小林 ええ、勿論そうなると思います。

在間 特別の事情がない限りは、裏付けの方はやめられるというわけですね。

小林 特別の事情というか……

在間 そう今尋ねられた。

小林 いやいや、審査長がいわれたのは、裏付けということだけで考えたら、それはその期間が済んだらその人は用済みやということではないか、こういうことです。

小林 私ははっきり覚えてません。
 傍 都合わるなっというもそれやな！
 在間 六一年四月、田中さんが退職された後、貞松さんを補充する時に検討は。
 小林 検討したと思うが
 在間 山下さんの裏付けがなくなるからと自動的に別の人を採用したのか、採用せないからという現場の必要性があったから採用したのか、どちらですか。
 小林 必要性があったからと
 在間 場合によれば補充しないという可能性もあったということですか。
 小林 そこまでちょっと覚えてない。
松本教育長も人間尊重教育を重視
 在間 六一年七月に、芝田教育長から松本教育長にわかりましたね。
 小林 六一年七月一日です。
 在間 甲第九六号証（六一年第一回市議会議事録）で、芝田教育長が、「昭和三〇年代から四〇年代前半のころには、他都市からの越境があり、当時は当行教育の最大のウェイトが上質旧学校への、いわゆる有名私学への進学準備にかけられていた。しかし、一部エリート層に重点を置いた教育ではないかという問題があり、被差別状況にある子供や障害を持った子供や、学力の低下した子供がおろそかにされていたのではないか等の反省点があり、昭

和四〇年代後半から、人間尊重教育を芦屋教育の基本に掲げてまいりまして、かつての芦屋教育のひずみを正そうとしたと、こういう基本的な考え方を示されていますが、こういう考え方について松本教育長は同じような考え方ですか。
 小林 ええ。
 傍 どこが同じやねん！
不測の事態に備えて軍手で市芦へ
 在間 六一年八月、前田校長が松本教育長と会ったと、内容は。
 小林 市芦高校の状況ですね。
 在間 もっと具体的に。
 小林 いろいろなことということで、わかるんじゃないですか。
 傍 まじめに証言せんか
 在間 何もわかりませんよ、何か証言しにくい内容なんですか。
 傍 コバヤシクーン、ちゃんと言えよ！
 在間 市芦のね、
 小林 もう答えません。（笑）
 傍 またスネた。
 在間 市芦の教員人事についての話は、小林 いや、さっき小林君って、どういう意味ですか、あれは。（笑）
 在間 質問に答えて下さい。例えば減員をするとか、だれを動かすとかいう話は。

小林 出たかもわかりませんし、出ないかもわかりませんね。
 在間 九月一日、市芦に四人で行かれた目的は。
 小林 教頭の机を職員室に運び込むことを支持するためです。
 在間 当日、軍手、カメラ、テープレコーダーも持っていたのか。何のためですか。
 小林 不測の事態が予測されますので、
 傍 何をいうとんや、挑発しとんどっちゃ。
 在間 軍手を持って行ったらいかなのですか。
 傍 何を開き直つとんや。
 在間 指示して運び込んでそれだけですか。
 小林 相当いろいろな混乱した状態があった。
 在間 そういう事態というのは、ある程度想定して行かれた、起こり得るかも知れないと。小林 少なくともそのままずっと机を入れてというような状態になるとは思ってなかった。
 在間 カメラ、テレコを持っていかれたのは、そういう時の証拠的なものを残そうとしてか。
 小林 例えば地公法違反のような事態が起こる可能性が十分ありましたし、そういうような不法行為的なことがしょっちゅう行なわれている状態やから。
 傍 ええかげんなこというな！
 小林 教育委員会の職務を妨害するような。在間 特定して下さい。あなたの話はいつもそういう話になると漠然とするんですよ。

在間 そういうことを尋ねてるんですよ。
 小林 それはそうです。ただ、特別の事情がある場合はまた採用するんかと言われますから、その特別の事情とは何やと、そんな事情はないやないかというようにことに発展しますから、そこは私は警戒して言うとするわけです。（爆笑）
 傍 すなおに言えよ！何かゴマかしてるからそうなるんやないか！
正規教員を強配してまで臨時職員を採用
 在間 もうちょっと素直にお答えいただきたいらいんですけどね（笑）六二年五月、山下さんが復職された段階で、伊賀崎さんは継続してもらおうという特別の必要があったのか。
 小林 いや、特別のという言葉ではなしに、何かの事情で私のほうでおってもらおうということが生じて
 傍 同じやないか
 在間 何かの事情って何ですか。
 小林 いや、はっきり覚えてないです。
 傍 ええかげんなことをいうな！
 在間 この時期は非常に大事な時期なんですよ。市芦の教員数という意味では、非常におたくの方で重要視されている時期でしょう。だから一名の教員が裏付けを外れて、いわばプラス一になるわけでしょう。だからどんな事情があったかおっしゃって下さいよ。

小林 いや、はっきり覚えてないですね。
 傍 人をとばしとって何いうとんや。
 在間 一名プラスになるでしょう。
 小林 いやそうはならない。
 在間 どうしてですか。
 小林 その部分だけとらえてね。
 傍 ごまかすな！
 在間 忘れたとおっしゃる、
 小林 私は覚えてないと言ってる。
 在間 六二年五月の段階で、英語科の先生が一人ふえたことになりましたけども。
 小林 いや、ふえるんかどうか……：……：……とそその辺……：……いろいろな絡みがあったと思いますから、今……：……
 傍 何の絡みや、組員をとばしたのか。定数削減やいうて人をとばしとるやないか！
 小林 絡みというのはどういうことかわからないんですけども、いろいろな関連があったと思いますので……：……
 寺内 ふえたという言葉なんですけどね、ちょっと答えづらいと思うんです。
 傍 またジャマする（笑）、答えんかいな。
 寺内 定員をオーバーするという意味でふえるという意味合いもあるし、いわゆる先生が実働ふえるという、
 在間 証言に対するヒントを与える発言ですからやめて下さい。
 傍 証人に答えさしたらええんや！

在間 英語科の先生が従前の体制からすると一名ふえるということになるんじゃないですか。
 小林 その限りにおいては、ふえるということかもわかりませんが、全体の職員の定数という問題があるわけですから、今すぐここで明快にはよう答えません。
 傍 ここで答えんかったらどこでするねん。
 在間 あなた、そんな無責任な人事異動をされたんですか。
 小林 すぐあなた、無責任やとか、何とか言いはりますけども……：……
 傍 その通りやないか（笑）
 在間 英語科の森村先生は配転されているわけですよ。配転理由をおっしゃっているわけですよ。
 小林 はい。
 在間 今の伊賀崎の問題では、もっと明確に答弁しないとおかしいでしょう。明確な答えがなければ、明確な理由がなくて英語科の教員を森村さん以外に一名増員してたということになりますよ。
 小林 そんなことにならへんでしょう。
 在間 それなら理由をおっしゃって下さいよ。
 小林 いやいや、それは忘れまして。
 在間 あなたは片方で、一名減員の理由を言っているわけですよ。現実には異動させているわけでしょう。

◆各地のたたかい◆

整理雇撤回をさせ

一日も早く職場に戻りたい！

全国一般恵泉寮支部「恵泉寮つうしん」No.24より

組合員のふんとう記

神戸市の北隅で、九〇年一月五日全員解雇という弾圧を受けながら、元気に闘っている仲間がいます。職場は社会福祉法人恵泉寮、そこは親と共に暮らすことができないでいる子供たちの児童福祉施設でしたが、一九八七年二月、寮当局は一方的に施設廃止を計画、精神薄弱者収用厚生施設なるものへの転換を実施しようとした。組合は子供達をいざ追放する計画に反対し抗議を行ってきたが、八九年三月に新施設の建設が强行され、組合と当局で新施設での労働条件をめぐる協議中に、突然全員解雇通告が出されました。新施設で働きたければ応募せよと、「国労つぶし」そのままの組合つぶしに対して、解雇無効と神戸地裁に提訴しています。

裁判で解雇理由も不明のまま、長期戦が予想されるとのこと、六名の組合員を中心に闘争体制づくりがすすまれています。

長期の裁判闘争をかまえる事は、家族の生活まるごとをかえていく事であり、まず家族への説得から闘いが始まっています。

この頃は、家事・育児に追われる毎日です。私の夫は、なんとか裁判に提訴することは賛成してくれたのですが、ことあるごとに「そんな裁判やめとけ」となります。満一歳になる息子を保育所に預けて「裁判の準備や闘争資金をつくらなアカンねん」と話をもちかけると、「なんで、そんな裁判のため子どもが犠牲にならんとアカン。家族のみんなが迷惑や」とか「おまえが楽するために保育所へ預

けるんやろ」と言ってもなかなか理解してくれません。

私の母や姉も、「そんな、いつ終わるかわからへん裁判、夫も反対やのに早いことやめとき」と言い、「何にそんなにこだわるの」とたずねます。私が「解雇も腹たつけど、仲間をうらぎることができない」と答えると、「なんやそんなこと」と母も姉も笑っていました。「仲間と家庭とどっちが大事なん」。

私にはどちらも大事で、裁判をやめて、夫の言ういい妻いい母にはなれないし、これまでの私の生き方がわからなくなってしまう。そんなことをふくめ、仲間に相談したら、私のできる範囲で闘争に参加してくれたらいいと言ってくれたので、ホッとしています。

夫の反対もあるけど、保育所に息子を預けることができ、雇用保険が切れたら、「アルバイト」と思っています。

活動日誌へ抜粋

1990.11.23～12.12

- 11・23 麦の家ハイキング。民闘連全国交流兵庫集會に参加（25）
- 24 兵高教全県分會代表者會議。
- 25 分會一時金交渉継続。
- 12・1 90年冬ゲルニカ事件全国集會に参加。
- 4 分會會議（一時金）
- 5 ゴンチャロフ労働組不当解雇地労委結審傍聴。
- 6 芦屋地協定期大会。
- 7 共同購入実施。麦の家運営委。
- 8 兵高教尼崎・阪神合同支部教研（福岡市井上先生の講演）
- 11 芦屋市議會で北村委員の後任の教育委員選任。通信No.45発送。

12／1ゲルニカ全国集會参加記

ゲルニカの旗が舞う福岡へ

救援会事務局 滝山昌彦

去る九月九日の集會に井上先生の記念講演をしていただき、「久し振りに生徒の話を感動して聞かせてもらいました」と、多数の方々から感想を聞かせてもらいました。その後、ゲルニカ事件全国集會を開きますとの案内が救援会に届き、さっそく出かけて来しました。

どこい生きてる一五歳

「今回の処分は私ひとりへの処分ではありません。子ども達を処分しています」「どのようにして子ども達と苦楽を共にし、互いに成長し合っていたかを述べたいと思います。子ども達の願いや心の叫びを感じていただきたいと思います」——これは不当処分撤回を求めた福岡市人事委員会審理の井上先生の冒頭陳述の書きだしです。「教育改革」は教師を串刺しにして生徒を処分するものであると反弾圧闘争の中で生徒の教育権保障を掲げ続けている私達の闘いと底流でつながる闘いであると受けとめています。この二年間で全国二〇〇ヶ所で二万人もの人々に井上先生を訴えられてきたと聞いています。心を踏みにじ



られた子ども達を囲む井上先生、福岡市民の会の人々には是非会ってみたいという気持ちで出かけました。

会場の入口で私達の闘いを紹介した緑のリーフレット配布も快く承諾いただきました。「通信よませてもらってますよ」と思ってもかけない声をかけて下さる人もいました。会場に

は五〇〇名もの参加者がかけつけ熱気につつまれていました。

はじめに不当処分撤回を組織的に取りくむ福岡市教組から、子ども達の発言を踏みにじったことへの怒りを柱にして裁判にふみ切っても勝利まで闘うとの力強い挨拶があり、卒業式のテープが流されてあらためて子ども達の闘いに心がふるえる思いがしました。続いて、ゲルニカ事件・日の丸問題で活動されている下嶋・原田両氏の講演がありました。集會で印象的だったのは、高校部落研生徒が福岡国体での日の丸・君が代の学校への介入に対して管理職と交渉した報告で、市芦の生徒達が「教育改革」に対し、「自分らの学校が変えられて来なくなる」と校長に抗議していた姿を思い重ねて聞いていました。

全国各地から参加された人の意見をということ、東京・京都・名古屋・大阪・兵庫と各地のとりくみが報告され、芦屋からということ、発言の機会を与えて下さり、教員処分と共に生徒切捨てが進行している実態を話し、井上先生の実践にも学びながら、とりわけ教員身分を奪われて生徒と切り離されている悔しさをバネに、共に生徒を守る闘いを進めようとのアピールをしてきました。

最後に、卒業生からのメッセージとして、「どこい生きてる一五歳！」の詩がテープで流されました。「こわいのは真実が見えなくな

るとき、どっこい生きてやる」との思いが会場全体に響きわたるようでした。

中洲を疾走するムレ

集会後の交流会で、市民の会の方々と全国各地から参加した方々となごやかに酒をくみ交わしました。というのは九時頃までで、二次、三次会とすすむにつれ、福岡の仲間の底抜けの明るさとエネルギーに圧倒されました。土曜の夜、中洲のネオン街に得体のしれぬ一群がくり出し、行きつけの地下にもぐると、すぐさま先客のグループとの歌合戦となる。わ

がクマさんチーム、なぜか真宗大谷派の坊さんが次々とくり出し、ギターの弾き語りをするわ、踊り出すわと、初手から乗りまくる。店の川谷拓三風ギターリストがローリングストーンズ特集と大音響、他の三〇名位の客がしゃかり席に座っている中、福岡の市民の会の一団が一斉に踊り出す。「これはついていけない」と座っている私は「どこか具合いでも悪いんですか」などと心配顔でいわれ、返答に困りました。「次いくぞ」とくり出した先ではLDカラオケ。井上先生は「国語の朗読の時間じゃなかと」との野次にもめげず、「次はこ

の歌」と全然おかまいなし。「井上先生の後には誰でも歌える」とよ」と冷静な評価。

外に出たら四時、市民の会の宗さんが寒さに背をまげながら一言、「あの卒業生のメッセージが届いたんで、今日の集会をやるうと、ただそれだけなんですよ」と。心を踏みにじられた子ども達の声が耳から離れなくなった人々が「ムレ」を組んで疾走する。様々な個性がぶつかり合いながら。井上先生を囲む心優しい人々と出会えて元気の出た一日でした。以下、卒業式の様子、卒業生の声を『ゲルニカ通信』七号から紹介しておきます。

「ゲルニカ通信」No 6より

かのようにそれぞれが拒否の意志表示をしていった。

会場はざわめき立った。

着席した子どもたちの母親たちも腰をおろしはじめた。子どもだけが座り、それを見て驚き、立つように子どもに促す親たちもいる。狼狽する親、毅然として着席する親。

重厚なはずの儀式は一変し始めていた。来賓たちはその卒業生たちを威圧するかのうように歌声を増して「国歌斉唱」を続けた。卒業生である彼女の声の凛(りん)とした声が、再び低い体育館の天井に届き、そして会場全体に反響した。

「歌いません！」

踏みにじられた子供たちの旗〈抄〉

西村栄造

(「子どもたちの『ゲルニカ』を」
考える福岡市民の会」代表)

●子どもたちの前に立ちはだかった卒業式「歌いません！」——。

君が代斉唱を拒否した澄み切った声が、国家儀式さながらの卒業式を切り裂いた。

間延びしたテープから流される『君が代』の短い前奏が終る直前だった。その卒業生の女の子は『君が代』に包まれた卒業式を体ごと拒否するように着席する。彼女のクラスをはじめ次々に卒業生たちは腰をおろしてゆく。一七〇名の卒業生のうち四〇名程の子どもたちが着席をし、大半の子どもたちも同調する

前夜までの十一回にわたる職員会議の疲れを隠すように礼服に身を包んだ井上教諭は、最初予想だになかった出来事に茫然として座り込んだが、二度目の発言時にはざわめき立っている卒業生たちの席へ行き、子どもたちを落ち着かせようとした。

くずれかけた儀式はそれでも進行し、卒業証書授与の段階にはいる。卒業証書を受けた卒業生は保護者席に向かい「決意」を述べることになっている。十数名の子どもが、この「決意」表明時に『ゲルニカ』の旗を貼ってほしかった」といった主旨のことを述べていた。やがて先に発言した卒業生の番がきた。地味なベージュのジャケットを着た女の子は、背筋をシャンと伸ばして発言台にのぼった。そして、メリハリの効いた説得力のある声で切り出した。

私は「ゲルニカ」をステージに貼ってくれなかったことについて深く怒り、そして、侮辱を感じています。校長先生は私たちに對して、私たちを大切に思っていないかったようです。「ゲルニカ」には、平和への願いや私たちの人生への希望も託していたというのに、貼ってくださいませんでした。

来賓席からヒステリックな罵声と怒号が飛び、「決意」を遮断した。

「何ばいいようとか！」「子どもらしくない！」「帰りなさい！」「親よ！親！」(親が悪いよの意味)「……！」

来賓席の罵声と怒号で会場は一瞬騒然となる。

「子どもの発言は、最後まで(聞くよう)お願いします」と会場を制したのは、担任の井上教諭である。卒業生の女の子に負けぬように姿勢を正して、説得力を持って、その騒ぎを制していた。

しかし、その卒業生は怯むことなく、むしろ前より毅然として、澄み渡る声で続けた。会場全体が緊張し、一瞬静寂そのものに変わっていた。皆、背に何かが走っていたにちがいない。

私は、怒りや屈辱をもって卒業します。私は絶対、校長先生のような人間にはなりたくないとおもいます。

校長、四〇名程の自民党県議をはじめとした来賓達が喉に唾を呑みこんだ。その間合いのあと、卒業生全員から大きな拍手が沸き起こった。

「決意」を終え、自分の席に戻るとき、「あの子、部落の子じゃないの」「親が悪いのよ」「なんてこというとね、この子は！」「帰りな

さい！」といった囁きのヤジが父母席の間に行き交った。

式の最後のお祝いの言葉を校長は、「今日の卒業式は今までの卒業式と違うところがある。今日の式をしっかり覚えといて下さい。君たちがどんな風に成長していくのか、私はしっかり見ておく」と締めくくった。卒業生や母親たちにとっては、まるで来賓のヤジの延長の恫喝に近いものとして感じられた。

式典が終わり、一旦クラスに戻った卒業生を五年生と来賓が並んで送り出す最後の別れの場に臨んだ時、来賓から再びヤジが放たれた。

「あの子には、拍手せんでよか！」

一九八八年三月の福岡市長尾小学校の卒業式での出来事である。

事件後、「長尾校区の教育を考える会」の主要メンバー、及び式当日の来賓達は、式当日に教育委員会に出向き、井上教諭を放校するように迫っている。式当日には、PTA会長名で次の様なビラを地域に隈なく配っている。地域を丸ごと扇動しはじめたのである。

一九八八年四月九日、長尾公民館で設立総会を一〇〇名程の規模で開いている。会場では卒業生の女の子と井上先生に対する誹謗・中傷が渦まき、学校経営に不当にも介入してゆ

今まで私は、国会議員の野次くらいしか聞いた事がなかった。こんなに身近に、まして子どもに向けて大人が野次をとばすなんて初めてだった。貴重な忘れられない経験だった。そして野次がおさまっていた。そして、再び決意を言った。

あの日が今にまで続き、日本各地に波紋を起すほどになってしまふなんて、驚くべきことだ。いったいどうしてなのだろう。あの日のありのままに問題があるだけではないようだ。この事件が世になげかけることは何なんだろうか。

三年間考えさせられた。

いろんな人間が、いろんなことを言い、何がポイントなのかわからなくなることもあった。私は今でも特別に大きなことをしたとは思わない。だからなおさら、「問題だ!」とは思えないのである。

けれど、この気持ちが大切なのではないのかと近頃思うようになってきた。

あたり前だと思っていたものの中をみると、あたり前でないものが見えてくることがあることを、小学生のとき学んだ。私は、再度その考え方に戻ってみることにした。

「あの卒業式は何が異常だったのか?」と思う。別に何もおかしくはないのだ。発言があり、ヤジがあった。感情的になった大人共が

叫んだ、ただそれだけのことだ。

あの日がちょっとしたきっかけになったということである。

でも、私は三年間無事、のうのと生きてきた。そして、今、こんなおんきなこと言っている。けれど、こうしてはいられない。

管理と体罰で生徒を支配し、物事の本質を考えさせない受験勉強で、中学生の多くが、問題意識をなくしていく。校則のことだって、不満は沢山あるのに問題としては考えようがない。まるで、人ごとのような顔をしている。受験のおわった高校生になってから考え始めるのだろうか。いやきっとそうはならないだろう。受験のルールはずっと続いている。それがなくなるまで、その日はこないのだ。

私も受験をする。だから波にのまれそうになることがある。だから事件の本質をしっかりとおさえずなくちやと自分自身に言っている。

先生の『処分』があった。そして私も処分されている。そしてマスコミはいろんなことをいう。しかし、本当のところはもっと深いはずなのだ。

子供、大人、処分、儀式、日の丸、君が代、天皇、ゲルニカ……いろんな問題があるみたいだ。その中でも私にとっての原点は、「校長先生はなぜ私たちの平和を願って描いたゲルニカではなく、日の丸を貼ったのか」という

問いである。その問いの中に社会の真実が見えてくると思うのだ。

私が「校長先生のような人間にはなりたくない」と強く思っていることも、逆に「どのような人間になるのか」という人生への問いとして心に刻まれるきっかけとなった。

そして、そのいろんなことの中のほんの一部が、いかにも守られ、育てられてきたというような顔をした小学校の生徒達の間から、大人の思いをうらぎる素顔をのぞかせてしまったという、ただそれだけのショックで何百人、何千人の人の心をドッキッとさせただけなのかもしれない……。今でも、よくわからない。

そして私には長い長いあせ道が用意された。ぬかるみに足をつっこみながらまっすぐ歩いてゆかねばならない。

何が起るかわかったものじゃない人生を歩みそうである。これも今という時代の環境に生み落とされたおかげなのである。

ありがたく、十五才という今たかたかという決意するのです。

闘いはこれからだ!

く決議がなされた。

「あそこで卒業証書もらった女の子が校長先生を批判した。私身震いしました。はつきりあの発言は人間原理の否定なんです」。

「私、第三者としてこの女の子は非常に哀れな子だと思ふんです。かわいそうな子だと。何がかわいそうかという、大きな落とし物をして中学に行った」。

「真面目そうな顔をしておとなしそうに勉強しているけれども、自分の学校の卒業式に爆弾発言をするというその気持ち、大きくなって就職のときなんか問い合わせがあるとする、そうすると幸か不幸か友達であった人が『この子はね、卒業式の時……』」。

「こんな子が、親に向かって、姑に向かって歯向かうんですよ」。

十五歳の今。

長尾小卒業生

夢と希望と怒りを胸に、私たちは卒業した。「中学ではがんばります。」とせいいっぱいの大きな声で、私たちは決意した。

しかし、中学生になってから、私たちはち

「この子は実際、自主的にそういう具合に言ったのか。悪く言えば先生が言わせたとも考えられるじゃないですか。(そうそう!……:の声)」。

「子供の白い紙の上に赤いインクを落としてもらったら困るもんで(拍手)」。

一九八八年六月二十七日、福岡市教育委員会は、「国歌斉唱時に児童の国歌斉唱拒否の発言及び着席に呼応するかのように着席し」という内容の戒告処分を井上教諭に対し行なった。処分説明の中に「児童の不適切な発言」と記載されている。児童をも処分するという、かつて例をみない異常な内容のものであった。

子供たちは、その魔女狩り的な地域の状況に決して負けていない。式のリハーサルの決意の時、ものも言えなかった一人の子ども

が本番の時に抗議の表現をした。

私は『ゲルニカ』の絵をステージにはってほしかったです」

と言って五秒くらい何も言えませんでした。本当の事を言って、ものすごくこわかったんです。そして「自分の意見をちゃんとと言える人間になりたいです」と言いました。

子どもたちが一斉に抗議に立ち上がった瞬間。一年前まで「荒れた」個性派クラスの子ども達は、この一年間を共に歩んできた井上先生を確実に乗り越え、一歩も大きく成長し、井上先生のこのクラスに全身を賭けた一年間の努力がある意味では実った瞬間だったかも知れない。

いっぱいだった。その中で、私には不安もあった。今までに感じなかった権力を行使する教育者、校長先生達の姿がちょっとだけ、いや、心に焼きつくほどに見えてしまったからなのだ。

私は、野次をとばされたとき、一時中断した。あれは言葉を忘れてしまったからではない。あまりの驚きにアゼンとしてしまったからなのだ。私は、野次を全て受けてやろうと思った。

どっこい生きている十五歳ノ

「ある日、ある朝、ある瞬間に……。」

長尾小卒業生

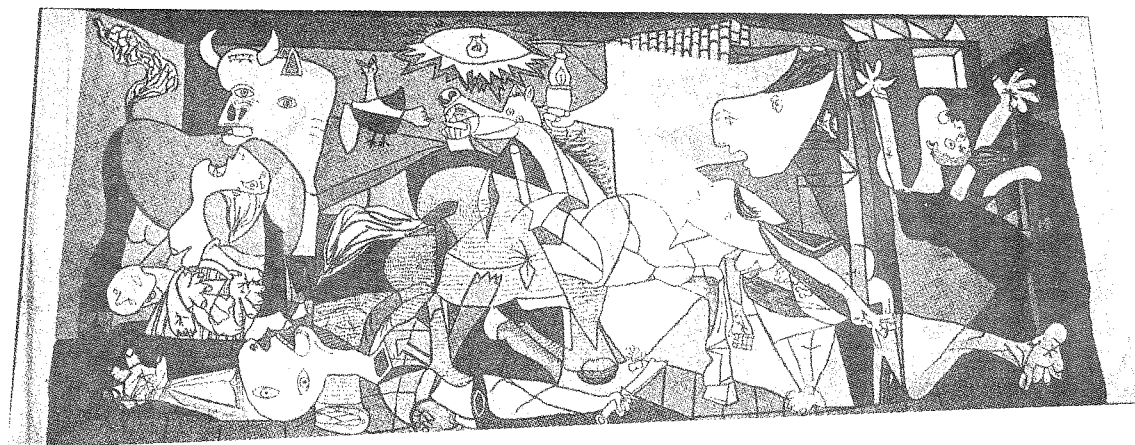
こうちようせんせい！
ぼくらのえはどこですか？
ほら きみのうしろに
あるぢやないかい
ぼくにはみえません
ぼくらのえ どこいった
ゲルニカ！

悪あがきではないのだ。
「反乱」ではないのだ。
SHOUTしただけ。
もがくことを知らなかった
まっすぐなことは
まっすぐ歩めばいいと思っていただけ
私が変わったのではないのだ。

私は私、
親が…… 先生が…… なんて
卑怯だ。
私は私で生きてみただけ。
悪いことですか？

三年間、黙っていたのではないのだ。
考えていただけ。
私をひっぱるものの大きさに
気がついたから。
考えていただけ。
不安だったのではないのだ。
道の広さに
迷っただけ。
でも、もう大丈夫。

裏と表があって
どちらが表か
どちらが裏か
迷っているうちに
一つになった
そんなものなのだ。
だから、
もう大丈夫。



子どもたちが制作した6年生の旗「ゲルニカ」



冊子の紹介

どっこい生きてやる
わからないことはないのだ。
時間がたてば見えてくる。
何もこわくはないのだ。
こわいのは自分を失うとき
こわいのは真実がみえなくなるとき

どっこい生きてやる。
しなやかに
したたかに

一九九〇・十一・一三

頒価 一マワマワ円

申込は、封書か葉書で左記住所まで。資料と郵便振込用紙が送付されますので、それで扱って下さい。
〒八一四 福岡市早良区南庄5の4の29の207
宗 比呂志
※追記 同会は「ゲルニカ通信」も発行しています。12月に特集号が出ます。頒価五〇〇円です。申し込み先は同右

編集後記

原稿を入れた夜、高速道路をブッ飛ばして帰る。ペンを持って眠れぬ夜を過ごし、快い緊張感をすり抜け、たった三〇分間の淡い虚脱感に浸っている。BGMを数カ月前からかえてしまった。もう中島みゆきとはおさらばだ。加藤登紀子もまっぴらだ。

すがられる程の柄でもなく

戸惑う程の馬鹿でもない

風が吹くよな ちんけな俺でも

魂だけはゆずれない

優しさではより一層ロマンティックな長瀬剛にこっている今日この頃です。

「教師らしさがぬけてきた」自分に不安を感じてきた。「激動」の一年、何がくずれ、何が生まれようとしているのか。いつか、どこかで、「教師らしさ」へのこだわりが、不安が形を変えはじめている。

この一年、実に多くの人々と出会ってきた。消化不良をおこし、本当に胃潰瘍になってしまったのですが、とりわけ井上先生・市民の会の人々との出会いは、肩をはってききた自分をときほぐすことになっている。

この通信が皆様の手元に届くのは、もう年が明けているかも知れません。旧年中は物心共に温かいご支援を下さりありがとうございました。